

# 寂れ行く商店会（街）

今、荒川区内の商店会47会あったのが、少しずつ減少して現在41会です。区内で一番に商店が少なくなったのがコツ通り商店会です。一番多い時には180店位あり、現在は50店程です。減少した最大の原因はスーパーとコンビニの増加です。スーパーやコンビニは品数の多く安く、生鮮食品は新鮮で、気兼ねなく買物ができます。商店は今までのやり方でお客さんは来ません。各店が特性のある商品を売らなければ残れません。

地域で集客するためのイベントの開催にはお金がかかります。しかし、毎月生活でさる家賃収入があれば良いのですが、資金を出せない店が多いのが現状です。時の流れと共に商店街（町）は変化してはいますが、その流れに乗れない商人たちは悩んでいます。しかし、何もやらなければ全部がダメになってしまいます。商店会（街）が生き残っていくのに皆さんの協力を頂きたいです。

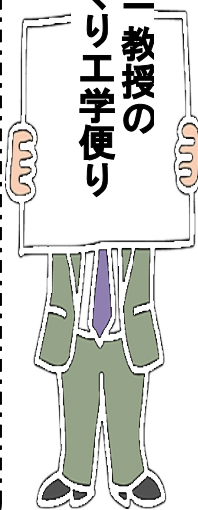
我がコツ通り商店会も南千住七商店会と協力して来年一月二月に松尾芭蕉俳句大会を賞金や賞品を多数用意して盛大に開催します。また、お地蔵様のある延命寺においても多くの売店も参加し色々な言葉遊びなど文化的な遊びができる子どもも大人も楽しめる大会を開催致します。多くの方々の参加をお待ちしております。頑張ります。

南千住一口話は十月に開催致します。

コツ通り 杉山六郎

## ☆六郎が語る☆ 南千住一口話 第204回

### 吉田喜一教授の ものづくり工学便り



#### 荒川区のかつての野菜生産

都立産技高専名誉教授 吉田喜一

荒川区は江戸・東京の近郊農村でした。荒川の「江戸伝統野菜」生産を紹介します。

江戸を代表する漬菜として三河島菜があります。白菜にとって代わられ栽培されなくなり、まさに「幻の野菜」になりました。

▼水枯れに三河島菜の葉張りかな 子規

三河島菜の畑の間を虚子と歩いた時の句。

谷中生姜は、谷中本村 現西日暮里1、2丁目）で栽培されていた葉生姜です。谷中生姜を単に「谷中」と呼ぶほどです。当時の谷中本村には道灌山からの湧水が流れ込んでいました。

▼一束の葉生姜ひたす野川哉 子規

「野川」は音無川か。

汐入 高専所在地）で栽培された汐入大根、荒木田 現町屋）で作られた荒木田大根は、秋に種を蒔き春に収穫する二年子大根です。刺身のつま、煮物、漬物として食されました。つきたての餅に絡めて、「辛味餅」としたり、蕎麦の薬味に使われました。

▼大根引く歌こそあらめ三河嶋 子規

偶然ですが、この原稿を書いた9月19日は子規の命日・糸瓜屋（へちまき）でした。根岸の子規庵を訪れ偲びました。

### 秋の北海道 LCC日帰りの旅

消費生活  
アドバイザー  
佐藤祐一郎

こんにちは。メガネのサトウ4代目です。今回は、先日（9月18日）LCC・春秋航空日本で日帰り北海道旅行へ出かけたお話です。

新千歳空港に到着後、電車で2つ目の千歳駅で下車し、最初の目的地「サケのふるさと 千歳水族館」に行きました。淡水魚の水族館として最大級の規模を誇るだけあり、水槽ではサケの仲間や、色々な種類の淡水魚がたくさん泳いでいて、時間を忘れてしまいます。この季節だけ展示されている婚姻色のベニザケは、本当に真紅の派手な色合いで驚きです。季節限定のお楽しみはもう一つ。水族館の横を千歳川が流れているのですが、地下1階からその水中をガラス越しに眺められるようユニークな作りになっており、遡上中の立派なサケを真横から見られるのです。水族館の隣には道の駅「サーモンパーク千歳」があり、ここで地元牧場の生乳80%の濃厚なソフトクリームを味わいました。それから農産物直売所コーナーで大きなカボチャを買い、お土産にしました。

帰りの飛行機に乗る前に、札幌・大通公園に向かい、開催中の「さっぽろオータムフェスト」をのぞいてきました。北海道の「食」を集めた祭典です。平日の午後にもかかわらず、多くの人で賑わっていました。テレビ塔を見ながら、私もおつまみ片手にビールで喉を潤してきました。

先の「北海道胆振東部地震」の影響で、北海道の基幹産業の一つである観光業が打撃を受けていると聞きます。行きの飛行機の窓からは、厚真町付近の大規模な斜面崩落が確認でき、複雑な思いもりましたが、徐々に普段の姿を取り戻しつつある北海道に出かけて、見て・食べ・楽しむことができると復興の後押しにも感じました。

#### ■メガネのサトウ■

南千住5丁目43の13 【東京新聞並び】  
TEL 03 (3806) 4930

#### ★休業日のご案内★

9月～10月…毎週火曜日が休業日です。

#### ★営業時間のご案内★

平日（月～金）…AM 9時～PM 6時30分  
土休日…AM 10時～PM 5時